

「さんか・さろん」 ニュース

2019年7月16日

「小池都政—昨日、今日、明日」

塚田博康さん（都市・情報研究室）

塚田さんは東京新聞社会部に入り、1967年東京都知事選挙から都政を担当。都庁キャップ、社会部デスクを経て、論説・編集委員。退社後2003年日本プレスセンターに「都市・情報研究室」を開設されています。

「さろん」には詳細なレジュメをご用意いただきましたので、別途資料とともにこの報告をご覧ください。

司会：川島理事長「塚田さんとは50年来の付き合いです。ちょうど美濃部都知事になった時から、一緒に都政担当の記者となりました。“東京に青空を”“ストップ・ザ佐藤”というスローガンで、都知事選が国政選挙のようなときでした。」

こんな紹介から塚田さんのお話が始まりました。

■小池知事、知名度と話題性で

まず、どのように小池都政が生まれたのか振り返りましょう。石原慎太郎知事の中途退任後、都政は混乱しました。副知事だった猪瀬直樹さんは歴史上最高の票を取って知事になったが、辞任。舛添要一さんが知事になるも、また辞任。いろいろな問題で、次々とやめていったわけです。



そんな中、よく選挙で“後出しジャンケン”ということがありますが、彼女は“先出し”でした。そして推薦する政党もないまま小池百合子元衆院議員が都知事当選します。

当時の都民感情としては政党に対する不信感がありました。都政の混乱收拾してほしいと、第三者へ期待したんですね。割合、都民は実績じゃなくて、知名度で選びます。かつて石原信雄さんという素晴らしい人が立ちましたが、知名度のある青島幸男さんが勝っています。そして話題性があった。東京で初めて女性が手をあげた。男社会では限界がある、女性社会をつく



らないと—という風潮がありますから。東京都初の女性知事が誕生すれば、女性の本格的な社会進出を象徴するということになる。ファッションなども含めパフォーマンスが上手でしたね。

■「豊洲市場」に取り組む

「黒い頭のネズミ」発言などというのがありました。当時、都政を牛耳っていたのは自由民主党、そこを攻撃することによって都民の興味を引きました。ただ「都議会冒頭解散」発言というのが問題でした、当選したら解散と。でも地方自治ではそういう権限は知事にありません。あまり地方自治はご存じないということも露呈されました。

で、当選後の小池都政がもたらしたものは何だったのか？築地市場の豊洲移転問題で再検討を約束。「立ち止まって考える」といったりしましたが、調べたら豊洲市場に「盛り土」のないことが分かりました、地下水汚染も見つかりました。これはチャンスになりました。東京五輪開催場所と「復興五輪」については、東京に造ることに決まっていたポート会場を、宮城県に移そうとして実際に宮城県知事とポートに乗ったりもされています。結局猛反対にあい東京になりましたが。

待機児童ゼロについては、実際に減ったところもありますが、待機児童の定義をごまかしている。数字的に減らすことをしている。実は隠れ待機児童がたくさんいます。

■「希望の党」で限界みせる

「希望の塾」をつくり2900人が参加し、「都民ファーストの会」(小池百合子代表)もつくりました。都議会議員選挙では都民ファーストの会 49人当選で第1党となります。その後「希望の党」が発足、小池さんは党代表に就任しま

すがここで「排除」発言がありました。これで衆議院議員選挙で「希望の党」は議席を減らし、小池さんは希望の党代表を辞任します。彼女のものの考え方が、これが象徴だと思いますね。「排除」については、一般からも批判が出ました。しかも開票日に彼女はパリにいた、公務とはいえ外国にいるというのが分かりません。

■大きな視点、長期ビジョンを

小池さんの主張する「電柱の地中化」はいいけれど、もっと大きな視点がほしい。防災ひとつとっても政策がない。美濃部さんも地方自治は素人でしたがブレインが素晴らしかった。先生方や役人をうまく使って施策を考えられた。当時、公害対策は小さな部署の仕事だったのを局にして、研究所も作りました。そういうことが小池さんは下手。都庁の役人はプライドが高いですから。また区市町との調整も難しいです。地方ではないですが、区長とかが都知事に喧嘩を売るなんてことがありますから。なかなか円滑にはいかない。

新規施策もいろいろ出しています。国より厳しい受動喫煙防止に踏み切りました。ベビーシッターの補助は、いまだにあまり動かない。個人が家に入るのをまだ日本では嫌がる傾向があります。CO2 ゼロについては目標年度が遠すぎて実感がわかない。いろいろ出ていますね。長期ビジョンを作るというのは遅すぎます。本来当選したらすぐに作らなくてはダメ。

■“再選”への課題は・・・

小池さんは再選に動きだしていますね。でも再選したのちの問題は山とあります。30年以内に70%起きるといわれる地震、相当の死者が出る。10万世帯分の仮設住宅をどこに作る？ 資材は？ 200万～300万の避難民をどうする？ と答えが出てこない。西日本大水害でよくわかりましたが、集中豪雨で東京の中小河川がどうなるのか？ 東京の下水は汚水と雨水を分けて

いない。あふれ出るとどうなるのか？ 温暖化で異常気象はますますひどくなるのに。

また、いま東京は生産人口が全国平均より多い。地方の人、働き手や若い人が東京に来ていますから。しかし東京の人口構成も変化しています。じきに年寄りばかりになります。AIというロボットなどが出てきますが、問題はデータ処理です。膨大なデータ処理を誰が分析し処理するのか、日本は遅れています。人間の知能を超える人工知能に東京都としてどう対応していくのか。顔の分析などで安全な社会でも、何もかもカードで処理し、結果なんでもばれちゃう社会。国が情報を握る社会になる。そして、外国人が一番多いのが東京。55万人はいる。今後ますます増やす、増える、その外国人をどうするのかも問題です。

都は税収がいい時はいいが、リーマンショックの時など一気に税収が落ちました。企業に頼っている都は大変です。やらなきゃいけないことが増えているので、重点的な施策に集中的にお金を使わないとなりません。1964年オリンピック以降に税収はドンと落ちました。2020年以降どのように都民の命を守るのか。それを都民に納得してもらうのか。皆がどう、何をできるのか。これからは大変です。

都議選で都民ファーストは負けるでしょう。そうすると少数与党になります。今後をしっかりと見守りましょう。



「続編をうかがいたい」というリクエストも。その機会は必ずありそうです。(まとめ：事務局 野口)